

## 協議員から出された意見

## 第13回協議会

## 昭和41年都市計画決定について

意見

- ・当時の都市計画審議会の資料について、次回の協議会までに意見として出すので、次回、討議願いたい。  
(新協議員)

## 外環練馬区間の計画時の状況把握と現状について

意見

- ・都市計画審議会で話された内容は幅員、構造、外環に関連した一般の道路の変更。関係権利者の意見書内容は賛成と反対の意見があり、反対意見の中身は交通、環境、その他がある。環境アセスメントに関しては10項目について事前の評価は影響は少ない。工事完成後の調査で騒音は、環境基準を超えたランプ部に対し看板、速度低減の依頼という措置をし、電波障害については有線方式による共同受信施設を設置した。そのほかの項目は基準以下。[提出資料補足説明] (宮良協議員)
- ・当時は非常に乱暴な古い体質の行政文化で行われた。今後行われる都市づくり、道路づくりについては、こういう轍を踏んでは困る。路線についても評価はできがたいが協議員の皆さんが意見を出して議論すべき。 (武田協議員)
- ・環境影響評価書には、谷原交差点総流入量の現況が1日当たり10万1,000台で、外環をつくらなかった場合は、昭和65年に11万5,000台で、外環をつかった場合には9万6,000台に減ると載っていた。その後実際にどうなったのか。 (江崎協議員)
- ・練馬区としては都市計画審議会の意見として谷原交差点の交通処理対策等21項目の条件をつけた。次々回以降に資料を提出したい。 (水上協議員)
- ・道路の構造について検討して、主張すべき。谷原の交差点は失敗だったと思います。 (武田協議員)
- ・谷原交差点の問題については、外環の必要性の有無を議論する時の大事なことであり、きちんと報告すべき。今、谷原交差点がどうなっているのか明確にすべき。 (濱本協議員)
- ・外環の入り口ができてから交通事故が多発しているという話を聞いた。外環の大泉の出口で混雑を起こす頻度はどのくらいか。 (新協議員)
- ・谷原の交差点周辺のトリップなどの交通量調査の資料と、外環ができる前とできた後の比較表、谷原のほかにすごく混む道の調査結果。渋滞する車の中で外環に出入りする車が何%なのかについて教えてください。 (栗林協議員)
- ・まちづくりを抜きにして外環を幾ら議論しても駄目。 (武田協議員)
- ・谷原の問題の意見が出たときに行政側はその対応をきちんとやるのか。 (濱本協議員)
- ・谷原の問題はやれることは大体やられている。渋滞対策として道路ネットワーク等長くかかるところもある。 (成田協議員)
- ・外環の整備に合わせた地域のまちづくり、あるいは関連道路の整備を一体的に整備をしてほしい。 (水上協議員)
- ・外環の問題を解決するためには、大泉の出口の問題を解決すべき。 (新協議員)

- ・昭和60年の環境影響評価書の放射7号から埼玉県境が開通すれば、谷原の交通量が減るという予測は、全体のネットワークができ上がったのではなくて、この区間が開通したら、交通量が減るという予測だったはずで、明確にしていきたい。(江崎協議員)
- ・当時の谷原の交通量と今の谷原の交通量を数字で比較していただきたい。(米津協議員)

## 必要性の有無（効果と影響）について

意見

- ・環状8号線の交通量は、インターチェンジがない場合1日5万8,000台、インターチェンジがある場合5万4,000台と試算している。大型車交通量は、インターチェンジのある場合、ない場合、いずれも1日9,000台程度と試算している。掘削土量は、インターチェンジがない場合で約1,000万立米、インターチェンジがある場合で約1,300万立米と試算している。大深度地下にしても、浅いところの地下でも、効果については変化はない。影響については地下水、地表面の沈下量に与える影響はよくなる。(伊勢田協議員)

## その他

意見

- ・外環道が東名高速でストップするというこに対して、目黒区、大田区、川崎市に住む方が東名を利用することを考えると、開通後は混雑が発生するのは目に見えているので第三京浜までつなげるべき。(秋山協議員)
- ・昭和45年の建設委員会の議事録の区画整理事業と外環との関連がどうであったか、春日委員の質問に対する政府委員の回答を整理していただきたい。(栗林協議員)
- ・議論が予定どおり進んでいるので運営懇談会は今のところ必要ない。(新協議員)